

研究課題：アカクロバ「SW RK1124」

担当機関：農研機構・北農研 作物開発研究領域 飼料作物育種G、道総研・酪農試 草地研究部飼料環境 G、
北見農試 研究部作物育種G、畜試 基盤研究部飼料環境G

協力機関：なし

1. 来歴

- 1) 品種名：「SW RK1124」
- 2) 育成者：Lantmännen（ラントメネン）社、スウェーデン
- 3) 導入者：雪印種苗株式会社
- 4) 試験経過：2014～2016 年に雪印種苗株式会社北海道研究農場において場外予備検定試験を実施し、再生草勢が穏やかであること、永続性が優れたことなどから、2017～2019 年に道内 4 場所において品種比較試験を実施した。
- 5) 登録：OECD 2019 年

2. 特性概要（標準品種「アレス」と比較）

長所：クロバ菌核病罹病程度が低く、うどんこ病罹病程度がやや低い。短所は特になし。

- 1) 早晚性：開花始日は標準品種と同じ晩生に属する（表 1）。
- 2) 混播適性：マメ科率は 2 年目が 42%、3 年目が 22%と標準品種と同程度であり混播適性は高い（表 2）。
- 3) 競合力：開花程度は標準品種と同程度であり、2 番草の草丈は同程度である（表 1）。よって、競合力も同程度である。
- 4) 越冬性：越冬性関連形質は標準品種と同程度である（表 1）。
- 5) 永続性：アカクロバ（RC）の 3 年目/2 年目収量比はやや低いが、RC+チモシー（TY）の 3 年目/2 年目収量比は同程度であり、全体としては同程度である（表 1）。
- 6) 耐病性：葉枯れ性病害罹病程度は同程度であるが、うどんこ病罹病程度はやや低く、クロバ菌核病罹病程度は低い（表 1）。
- 7) 収量性：混播収量は標準比 98 と並である（表 3）。

表 1 主要形質の調査結果

	SW RK1124	アレス	評価基準	備考
開花始日（1 番草）	7/2	7/2	暦日	北農研単播
着花茎程度（1 番草）	2.0	2.1	1:無－9:極多	全場所平均
草丈（2 番草）	42	44	cm	全場所平均
越冬性	5.7	5.4	1:極不良－9:極良	全場所平均
早春の草勢	6.0	6.0	1:極不良－9:極良	畜試
クロバ菌核病罹病程	2.0	4.3	1:無－9:極多	北農研単播
うどんこ病罹病程度	2.7	3.2	1:無または極微－9:甚	全場所平均
葉枯れ性病害	2.1	2.0	1:無－9:極多	全場所平均
秋の被度（3 年目）RC	3.8	3.9	%	全場所平均
3 年目／2 年目収量比 RC	92	93	%	全場所平均
3 年目／2 年目収量比 RC	58	64	%	全場所平均

チモシーは「ヘリオス」を供試した。

表2 マメ科率 (%)

	2年目	3年目
SW RK1124	42.2	22.4
アレス	38.0	23.8
4場所平均		

表3 混播試験における3カ年の乾物収量

	SW RK1124 (kg/a、%)						アレス (kg/a)		
	TY	(比)	RC	(比)	全体	(比)	TY	RC	全体
北農研	198.4	96	129.2	108	327.8	101	206.0	119.8	325.7
酪農試	170.5	99	48.9	102	219.3	99	172.4	48.0	220.5
北見	153.2	100	97.3	94	250.3	97	153.7	103.5	257.1
畜試	137.5	93	58.3	106	195.8	96	147.9	55.2	203.1
平均	164.9	97	83.4	103	248.3	98	170.0	81.6	251.6

3. 優良品種に採用しようとする理由

アカクローバは北海道の基幹マメ科牧草で、タンパク質やミネラルの供給源として重要であり、固定窒素の供給源として窒素肥料の軽減効果も期待できる。「SW RK1124」はクローバ菌核病罹病程度が低い晩生品種であり、チモシー中生品種との混播に適しており、道内の高品質粗飼料生産に貢献することが期待できる。

4. 普及対象地域および普及見込み面積

道内一円、25,000ha

5. 配布しうる種子量

5t/年（2024年より供給開始の予定）。

6. 栽培上の留意点

チモシー中生品種との混播に利用する。